

## 2025. 3.6 毛糸遊びを振り返る

年明けから年長保育室では毛糸遊びが広がってきました。Facebook でも時折紹介をしてきました。今もなおいろいろな子供たちがそれぞれのタイミングで毛糸遊びを楽しんでいます。

最初は、マフラー作りから始まった毛糸遊び。マフラーができ上がってくることに達成感を味わい、また首に巻くことでそのぬくもりを感じます。そこから、あやとり遊び、雪の結晶作り、帽子作り、指あみ、コースター、機織りと毛糸遊びは広がっていきました。

またあやとりでは鉄棒遊びみたいにオリジナル技を自らあみ出したり、毛糸での雪の結晶作りでは外の雪を顕微鏡で見たり、折り紙の切り紙の結晶と重ね合わせたりと毛糸遊びの枠を超えた広がり、世界性をも感じることができました。

最近では、かぎ針を使って編む子も増えてきています。好きだからこそどんどんその先へ、より高い技術を自ら求め習得し、表現方法を広げていきます。まさしく世界をひらいています。かぎ針編みは、教師のやり方と子供たちのやり方ではちょっと違います。子供たちなりのやりやすいやり方をあみ出し、それを子供同士で伝え合い、どんどんかぎ針編みが広がっていくところがまた面白いです。子供たちなりのノウハウに価値があるように思えます。

また、毛糸遊びは個人での遊びがメインですが、技術を教え合ったり、見合いっこしたり、互いに影響しあったりと人との関わりもたくさん見られています。個人で「好き」を追求した先には、「人に教えたい！」「周囲の子の違う方法も試してみたい！」と人との関わりを自ら求めていく姿につながるようにも感じました。

毛糸遊びは、そのカラフルな素材だからこそ生まれる審美性というものもあるのかもしれませんが。自分なりの色へのこだわり、色の組み合わせの面白さなどもあるでしょう。そして、質感もいろいろです。細い毛糸、太い毛糸、モフモフの毛糸…。今も盛り上がっているミサンガにはやはり細い毛糸がやりやすいと子供たちは言っていました。帽子はモフモフの毛糸がよりぬくもりも感じ、また太いから早く編めるみたいです。素材の特性を理解し、それを生かして遊びに生かし、使っていく。そのことにより毛糸の素材としての可能性もどんどん広がっていきます。最近では、マフラーづくりの方法を使って、毛糸ではなく、細いリボンで編み込み、籠を作っている子もいます。技法を習得したことがさらなる表現にもつながっていきます。

年長児でここまで毛糸遊びが広がったのは初めてです。それはなぜかなと考えています。

それは「好きが広がり、世界をひらく」という研究テーマのもと、子供たちの「好き」から「愛」へを大切にするとともに、一つ一つの遊びの可能性を子供たちとともに常に探究していることもひとつ影響しているのかなと考えています。

その素材（遊び）はどこまで広がっていくのか。

素材を通して多様な世界をつくっていききたい。

その遊びの枠を子供たちはどのように超えていくのか。

子供たちの目の先はどこをむいているのか。

それを教師集団としてどのように支えていけばいいのか。

毛糸遊び以外にも、いろいろな遊びが園のあちこちで同時に展開されています。

一つ一つが子供たちにとって豊かな体験、経験になるように、それぞれに日々試行錯誤しながら、教師一同取り組んでいます。令和6年度ももう少しで終わりを迎えます。今年度の保育を子供の姿から省察し、来年度へとつなげていきたいと思っています。

